

「自は小野の小町」

「イヨ、汚い小野の小町やな、みずからやない鹽辛みたな顔を仕てなはる、其方の坊稚は」

「ムチャチボウ、ベンケイ」

「お子達までなぶりなはる、其方の御出家は」

「愚僧かな、愚僧は高野山弘法大師、是なるは圓光大師……：唵阿謨伽、毘盧遮那、摩訶母捺羅、摩
拈鉢納摩人嚩囉、嚩囉嚩哩多耶吽、眞言經を二十一遍書け」

「帳面が眞黒に成ます、何卒なぶらん様に叮嚀に云ふておくれやす」

「私叮嚀に云ふよつてに叮嚀に書いてや」

「へい叮嚀に…… 結構で」

「假名で書いてや」

「へい〜假名で」

「おふさかより、さんりみなみにあたる、せんしゆうさかいと」

「それなら最初から泉州堺でえゝのどす」

「物事は叮嚀に」

「叮嚀すぎます、泉州堺へえ〜」

「だいどうくけんのちやう、はうちようかじ、きくいちもんぢかねたか、ほんけこんぼんかじもとき
うざえもん、なごやししんまちどほりにちようめ、おなじくしてん、にやうぼさよ、せがれまんき
ち」

「モシ、それは何んどす」

「今度堺から名古屋へ包丁の店を出そうと思ふねんが、ちらしの所書はそれで解るかしら」

「モシ、うだ〜云ひなはんな、其方さんは」

「私は名前だけ云ふで、名前だけ書いて」

「へエ、名前だけで結構どす」

「播磨屋彌兵衛と」

「へえ〜」

「河内屋太郎兵衛、大和屋徳七、萬屋金兵衛、紀洲屋源助、泉屋與兵衛、浪花屋清七、山城屋嘉一、
堺屋治助、榊屋新兵衛、今井屋安兵衛、竹屋岩吉、雜穀屋八兵衛、赤穂屋太三郎、備前屋佐兵衛、
讃岐屋喜平、肥前屋角兵衛、近江屋勘右衛門、津の國屋萬助、伊勢屋三郎兵衛、永樂屋宗兵衛、鶴
屋秀治郎」

「エーエ、仰しやつたのは何方はんと何方はんどす」